



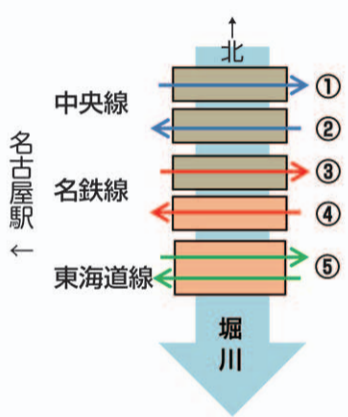
日本初の鉄道営業路線が、明治5年(1872)9月開通の「新橋～横浜間」であることはよく知られている。それでは愛知県で初めて開業した路線は？ じつは知多半島の武豊港と名古屋を結ぶ武豊線だ。

武豊線は、東京～神戸間の大動脈建設に向け、はじめは中山道経由の鉄道を造るために計画され、明治19年(1886)3月に開業した資材運搬線であった。鉄道建設資材を海上輸送し、陸揚げする基地となった武豊港(熱田港は水深が不十分)のある武豊駅から熱田駅間がまず開業し、4月には名古屋駅(笹島)まで延伸した。同年7月、中山道経由の路線が技術と経済面から困難と判断されて、東海道経由に変更されるという事態に至った。結果として東海道線建設のために活躍することとなった武豊線は、東海道線の開通(全通は明治22年)にともない、大府駅～名古屋駅間が東海道線の一部となった。

当時、初めて堀川に架かった鉄橋は替えられたものの、その橋脚は130年以上たった今も現役で堀川を渡る電車を支えている。まさに最古参の存在である。金山総合駅北口から線路沿いに西へ金山公園をゆくと、そこに堀川橋梁(鉄橋)が架かっている。列車の通る鉄橋の下は堀川端歩道になっていて、東海地区で最古参の橋脚が観察できる恰好の場所である。

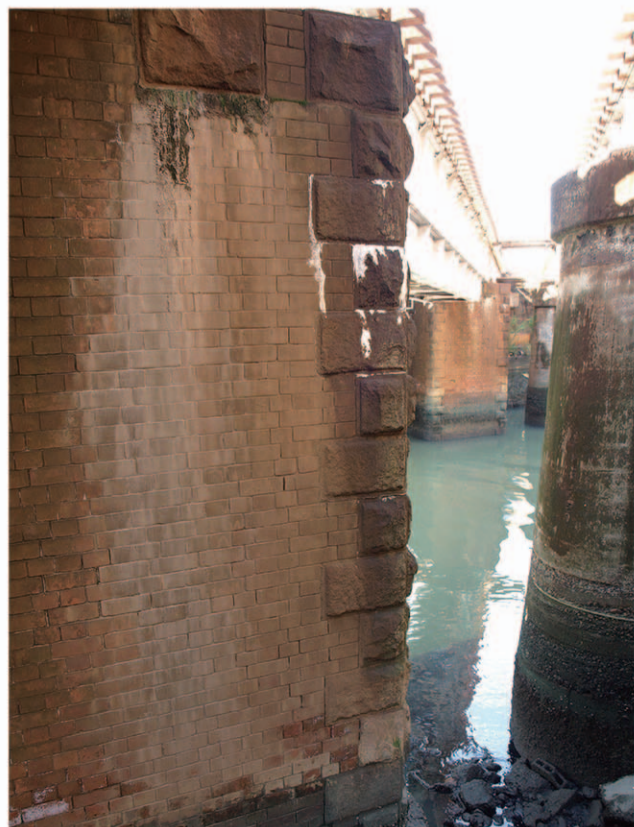


現在も堀川橋梁を主要な鉄道が渡る。左から東海道線、名鉄線、中央線。いま左手を走行している赤い電車が明治19年建造の橋脚上を通過することになる名鉄線下り。(正木橋から堀川方面に向け撮影)



各橋脚の来歴は複雑なので、図を見ていただきたい。線路は南側から東海道線、名鉄線、中央線と並んでいる。その内の東海道線と名鉄線下り線がレンガと岩石による明治の建造物である。愛知県はレンガの生産地としても全国有数で、半田赤レンガ建物など、幾多の大地震をくぐり抜けて今も立派に使われている建造物が多い。そんななかでも、堀川の河中にあって南から2番目に立つ名鉄線下り線の橋脚は、一種の威厳とともにレンガと石の懐かしさを感じさせてくれるものだ。

- ①の橋脚……1964年に中央線の複線化に伴い造られ、現在に至っている。
- ②の橋脚……1944年に名鉄線が名古屋駅方面に延長された時に造られた。その後、1964年に中央線の複線化に伴い中央線の下り線として使われ、現在に至っている。当初は名鉄線、今は中央線が走る。
- ③の橋脚……②と同様に1944年に名鉄線が名古屋駅方面に延長された時に造られ現在に至っている。
- ④の橋脚……1886年(明治19)に東海道線(前身の武豊線)が開通したときに造られた。⑤の橋脚が造られ東海道線が複線化した後は、1900年(明治33)に中央線(単線)の橋梁として使用された。その後、1964年に中央線の複線化に伴い名鉄線の下り線として使用され、現在に至っている。当初は東海道線を支え、次に中央線へ、そして今は名鉄線が走るレンガの橋脚。
- ⑤の橋脚……1899年東海道線の複線化の時に造られ、現在に至っているレンガの橋脚。



左手前と奥が④の橋脚。右手は③の橋脚



上：④の橋脚の土台部分 土台もレンガを使用



下：⑤の橋脚の土台部分 複線化対応のレンガ積み



上：堀川の橋脚は横一列にレンガの長辺または短辺だけを揃えて積み上げるイギリス積みである(関西に多く、イギリスからの技術指導の影響が見受けられる)
下：群馬県富岡製糸場の置簾所外壁 レンガの短・長辺を横に交互に並べて積み上げるフランス積みである(関東に多い)